

# 令和元年度 学力向上先進地域視察研修報告 (埼玉県・久喜市教育委員会、羽生市立羽生北小・羽生南中学校)

## Cグループテーマ:「教員の意識・指導力の向上」

※各グループのテーマは、学力向上プランの5つの視点に基づいています。

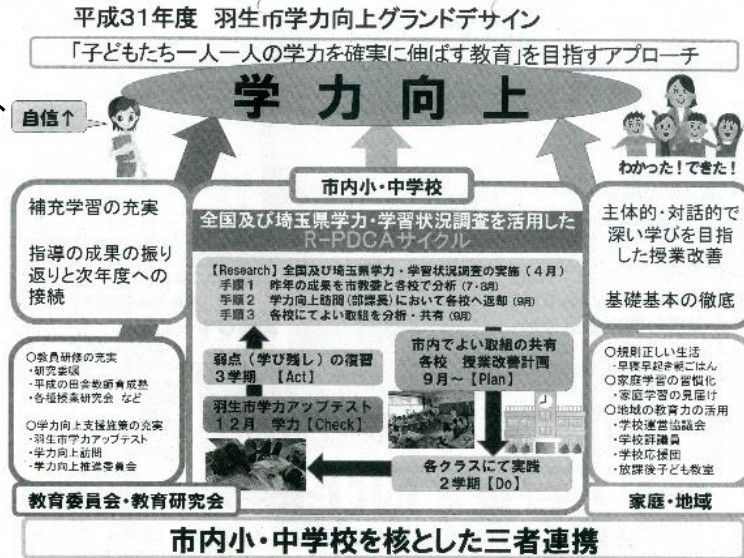
### 取組の実際

#### ◇ 学力テストを活用したR-PDCAサイクルの機能化

4月に「全国学力・学習状況調査」と「県学力実態調査」を実施し、その結果を夏季休業中に分析することで、2学期からの実践に生かし、12月の「市学力テスト」で見取り、3学期に学び残しがないようにしている。さらに、1学期中に行った実践の中で、効果的な取組を集約し「よい取組集」を市内に配布し実践を呼びかけるなど、市教委が中心となり、R-PDCAサイクルの機能化が図られている。

学力を「これからの時代に必要な力」として捉えた校長の明確なビジョンのもと、市教委と学校・家庭・地域が協力して取組が行われていた。

学力テストの結果のみではなく、非認知的能力を見取るためのアンケートを実施し、市教委が集約・分析を行い、学校へ還元するという仕組みが構築され、「授業で、どの子どもたちに、どんな力を付けさせたいのか？」が明確に示されていた。校長のリーダーシップにより、職員の意識向上を図る取組が数多く実施されていた。多くの取組が効果的に実施するために、育みたい児童生徒の姿を明確にし、常に立ち返るといったスタンスでの学校経営が実践されていた。



### 今後、各学校で実践していきたい取組

#### 【教務担当主幹教諭として】

- 子どもたちの実態を、学力面だけではなく、非認知的能力も見取ることができるようなアンケートを構築する。
- 取組の成果を「見える化」することで、職員集団の意識を高める。
- 活動等の提案の際には、活動の目的を子どもの姿で示すことを心がける。

#### 【校内研修担当者として】

- 全職員で共通理解を図り、共通実践できるように、納得のいく効果をデータとして示す。
- 効果のある実践例や各教員の取組の良さなどを、通信等を用いて積極的に発信する。
- 授業の振り返りの活動などを各教科の共通実践事項として設定する。

### 【先進地域視察研修を通して実感したこと】

- 学力向上のためには、綿密な実態把握による職員の目標・ゴール像を明確に示すことが大事であり、当たり前のことを全職員で徹底して行うことが必要である。
- 「主体的・対話的」な授業を展開するためには、話し合いや授業の仕組み、手だてを共通理解した上で実践することが大切である。

## 共通テーマ「授業づくりについて」

### 取組の実際

#### ◇ 授業の流れの統一(北小・羽生ベーシック)、授業の構造化(南中・南中スタンダード)

若年教員の指導力を高めていくために、一単位時間の授業の流れを小、中学校で統一した実践が行われていた。全ての教員の教え方をそろえることで、重点化する手だてを明確にすることができる。また、児童生徒にとっても、見通しをもって授業に参加できることにつながり、次の目標をもちやすくすることができる。特に南中では、授業前にすることと授業中にすること(話型、姿勢)を統一しているため、より効果的な授業が行われていた。

#### ◇ 「対話的な学び」のための工夫

対話的な学びを活性化させるための手だてとして、「南中シェアタイム」があった。どの教科領域でもシェアタイムが位置付けられており、子どもたちにとって価値ある時間となっていた。また、どの教員でも実践できるように、明確な方策が「形態」、「視点」、「アイテム」の項目でまとめられていた。実際のシェアタイム(数学)では、考えを共有するだけでなく先生役の生徒が友だちに教える活動が設定されており、友達を正答に導くことができたかどうかについても評価するなどの工夫がなされていた。このような活動が、研究のための手だてとして一時的なものとしてではなく、日常化されていた。



#### ◇ 振り返り活動の工夫

振り返り活動を充実させるために、中学校では、「ふりかエルタイム」が位置付けてあり、まとめる段階で、自分の言葉で課題に沿って自己解決の段階について振り返る活動が設定してあった。この取組が全校で統一して行われていた。

### 今後、各学校で実践していきたい取組

#### 【教務担当主幹教諭として】

- 教育指導計画に基づいて、特別活動の確実な実施を行っていく(支持的風土の確立)。
- 授業スタンダードの徹底(当たり前のことを当たり前のようにしていく)。

#### 【校内研修担当者として】

- どのキャリアステージにある教員でも、授業デザインの大きな型に沿って授業づくりに臨むことができるように明確なデザインを提示する。
- 「授業スタンダード」や「学び合いの工夫」など、良い取組事例をまとめ、どの教員も授業改善に取り組みやすくする。
- どの教科領域でも活用できる「振り返りシート」の提案や、書くモデルや内容などを提示する。